

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第1区分
 【発行日】平成18年6月8日(2006.6.8)

【公開番号】特開2001-8501(P2001-8501A)

【公開日】平成13年1月16日(2001.1.16)

【出願番号】特願平11-179734

【国際特許分類】

A 01 B 33/08 (2006.01)

【F I】

A 01 B 33/08 Z

【手続補正書】

【提出日】平成18年4月11日(2006.4.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

16は軸17を中心に回動可能なスタンドで、機体前方側方にて機体を支持すると共に、走行時には回動収納して走行の妨げにならないようになっている。

ギヤケース1の上部には、後方上方に向けてハンドル杆18を立設しており、機体後方を歩く作業者が、該ハンドル杆18の後端部を持った状態で操縦操作を行えるようにしている。

19, 19は前記ハンドル杆18後端に取着のグリップ、20はロータリ3の動力を断続する指クラッチレバー、21は前記スタンド16の回動操作を行うスタンドレバー、22は機体の走行速度を切換える変速レバー、23は原動機11からギヤケース1への動力を断続する主クラッチレバーであり、該それぞれのレバー20, 21, 22, 23を、ハンドル杆18後端のグリップ19, 19近辺に設けて作業時の操縦操作に便利なようにしている。

ハンドル杆18は、ギヤケース1を中心として、平面視放射状に延設した2本のパイプ杆で構成しており、その前後中間部で連結板24により左右のパイプ杆を連結補強している。25は該連結板24中央に設置の安全スイッチである。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

歩行型管理機は、田畠に形成の幅狭の溝M内を走行して作業を行う場合が有り、この時歩行型管理機の走行する溝幅Wは、機体の左右中央、即ち駆動スプロケット5の左右中央から走行伝動ケース4外端までの幅Zの約2倍が一般的である。そこで、図5に示す如く幅X < 幅Y = 幅Zなる扁形のクローラベルト7を用いることで、溝M内のクローラ接地幅を十分広く形成し、幅X = 幅Yなる一般的なクローラベルトに比べ牽引力を向上すると共に、左右幅広の走行装置2により走行安定性も向上する。